

## 平成25年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,918	8,414	4,224	4,190	0	20
2 千 石	3,372	6,640	3,360	3,280	6	5
3 内 山	4,864	7,119	3,835	3,284	12	10
4 大 和	3,156	6,558	3,269	3,289	△ 15	△ 41
5 上 野	7,335	15,681	7,634	8,047	△ 1	4
6 高 見	6,316	12,444	6,020	6,424	5	△ 1
7 春 岡	6,308	10,395	5,523	4,872	79	123
8 田 代	11,104	21,253	10,160	11,093	16	△ 12
9 東 山	9,666	18,782	9,178	9,604	22	41
10 見 付	4,309	8,279	4,158	4,121	△ 2	△ 9
11 星ヶ丘	3,359	6,635	2,963	3,672	△ 13	△ 19
12 自由ヶ丘	3,505	7,759	3,534	4,225	21	55
13 富士見台	6,361	15,671	7,243	8,428	△ 1	△ 11
14 宮 根	3,682	8,404	3,989	4,415	6	4
15 千代田橋	3,585	8,727	4,085	4,642	△ 5	△ 15
千 種 区 計	81,840	162,761	79,175	83,586	130	154
H24. 6. 1	81,883	161,691	78,609	83,082	197	246
対 前 年 比	△ 43	1,070	566	504	△ 67	△ 92
名 古 屋 市	1,031,877	2,269,881	1,117,957	1,151,924	1,143	832
愛 知 県 ( H25. 5. 1 )	2,984,715	7,428,379	3,710,881	3,717,498	11,886	12,632

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	99	94	5	1,009	860	149

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132		
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
				146,727 (平成11年4月1日)	

- 注1) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。
- 注2) 社会動態および対前月増減には、平成24年7月の法改正に伴う外国人人口の取扱変更による数値変動が含まれており、昨年との連続性はありません。

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

## 千種区の年齢3区分別人口の概況

平成 25 年 6 月 1 日現在の千種区の世帯数は 130 世帯増の 81,840 世帯となっており、人口は 154 人増の 162,761 人となっています。今回は、千種区の年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15～64 歳）および老年人口（65 歳以上）の比率について、名古屋市全体および各区と比較していきます。

図 1: 区別年齢3区分別人口比率(各年 10 月 1 日現在)

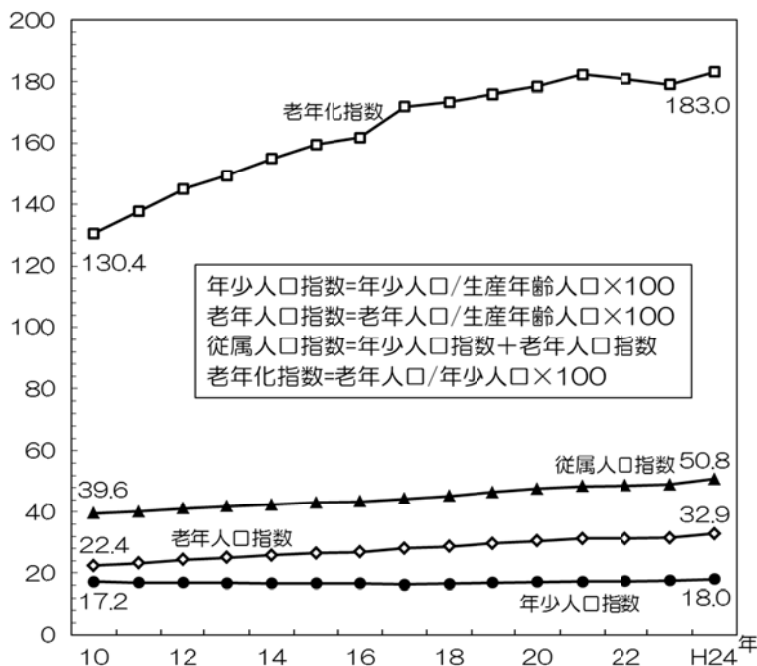


名古屋市の平成 24 年 10 月 1 日現在の年齢 3 区分別人口比率を、10 年前（平成 14 年）と比較すると、年少人口は 12.9% で 0.9 ポイント低下し、生産年齢人口は 65.0% で 4.2 ポイント低下し、老年人口は 22.1% で 5.2 ポイント上昇しました（図 1）。

区別で見ると、年少人口は緑区が 16.3% と最も高く、守山区 15.4%、名東区 15.1% と続き、千種区は 11.9% で 9 番目でした。生産年齢人口は、中区が 71.3% と最も高く、東区 67.4%、天白区 66.9% と続き、千種区は 66.3% で 5 番目でした。老年人口は、南区が 26.1% と最も高く、中村区 25.5%、北区 25.0% と続き、千種区は 21.8% で 11 番目でした。

千種区の子産年齢人口に対する年少人口の比率を示す年少人口指数は 18.0 で、名古屋市全体(19.9)

図 2: 千種区の年齢構成指数の推移(各年 10 月 1 日現在)



よりも小さく、平成 10 年からほぼ横ばいとなっています（図 2）。一方、生産年齢人口に対する老年人口の比率を示す老年人口指数は 32.9 で、名古屋市（34.0）とほぼ等しく、平成 10 年から 10.5 ポイント増加しています。従って、年少人口に対する老年人口の比率を示す老年化指数は増加しており、平成 24 年には 183.0 に達し、名古屋市全体(171.4)よりも高くなっています。また、平成 10 年比で 52.6 ポイントの上昇となっています。生産年齢人口に対する被扶養人口（年少人口と老年人口）の比率を示す従属人口指数は 50.8 で、名古屋市全体（53.9）よりも低くなっており、平成 10 年比で 11.2 ポイントの上昇となっています。